



ブックレビュー

## ペスト

福祉心理学科長 小松 紘

55年前といえばちょうど中学1年の頃であるが、深く感銘を受けた小説があった。それがカミュ作の「ペスト」である。ひさびさに読み返して再び熱いものを覚えた。

舞台は1940年代のアルジェリアのオランという町である。その事件はネズミがぞろぞろと家から路上に現れ血を吐いてもだえ死ぬという奇怪な光景から始まる。数ヶ月後、ペストに支配されたオランは、町ごと外部から隔離されることになる。閉ざされた町の城門の中で、危機的な状況に追い込まれた人々の不安と恐怖。精も根も尽き果てるような先の見えない闘い。愛する者と引き裂かれた悲しみ。終わりのない煩悶と葛藤。その結果彼らが選んだ行動の行き着くところ……。

本書は作者カミュの深い人間愛と、既存の宗教にも思想にも左右されない強い信念を感じさせながら、冷静な文体で描かれている。目に見えない恐怖にさらされ、居住地からその外に出る可能性を閉ざされた人々の思いは、このたびの大震災に連動した原発事故のために、ふるさとを離れたまま帰ることのできない人々の運命と重ねられ、痛ましがよみがえる。愛する者

との別離の悲しみ、住み慣れた我が家や故郷を捨て、離れなければならない無念の思いは当事者でなければ分からないであろう。

外からの援護も十分になく、行政の適切な対応も期待できない究極ともいえる困難な状況にあって、主人公の医師リウーのように、懸命にペストとたたかい続ける者とその仲間、愛する者のために脱走を試みる新聞記者、パニック状況の中に自分の過去を埋めてしまおうとする逃亡者、神と対峙する神父、援護隊を結成しようとする者、そしてそのような男たちを支える女たち。人間の精神が耐えられるぎりぎりの不条理さの中に放置された人間のさまざまな生き方が、生き生きと描かれる。

読む者に強く訴えるものがあるなら、それがいわゆるフィクションであるかどうかは問題ではない。この点は、新しい感動を生み出す芸術一般に言えることであろう。本書は時代を超えて読む者に自分の人生を改めて考えさせる書であるといえる。ぜひ読んでみられることをお勧めする。

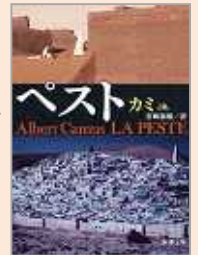
カミュ[著]；宮崎嶺雄訳

『ペスト』

新潮社 2004

所蔵しているのは改版です

所 在： 学生閲覧図書  
請求記号： 953.7/カミ/学関



### 五橋中学校

10月19日～21日

舟生 佳奈子

図書館の仕事は思っていたより大変でしたが、ライブラリーサポーターの方や館員の方が丁寧に教えてくれたので良かったです。3日間、充実した職場体験でした。

渡邊 芳野華

職場の体験を終えて一番印象深い体験は、展示の本の紹介文を書いたことです。読者が興味を抱くような文章を書くことがどれだけ難しい事なのかを知ることができました。



絵本の紹介作成中の様子

### 中学生職場体験

五橋中学校と吉成中学校の皆さんが本学の図書館で職場体験を行いました。

大友 里紗

今回の職業体験では、今まで知らなかった図書館の本の受入過程について知ることができました。3日間、貴重な体験をさせていただきましました。ありがとうございました。

藤本 友佳子

今回の職場体験は、最初は本当にとっても不安で本当に上手くできるかと思っていました。でもだんだん慣れてきて、本当に楽しくなってきました。ありがとうございました。

小山田 夏樹

職場体験学習を通じて感じたことは、「多くの人々の力で職場が成り立っている」ということです。この体験を今後の人生に活かしていきたいです。ありがとうございました。

中学生の皆さんはカウンター業務をはじめ、本や雑誌の受入・納品作業といった図書館業務や絵本紹介(展示)などを体験しました。職場体験の最終日、ホワイトボードにメッセージが残されていました。心が温まる言葉で嬉しく思いました。

ありがとうございました。  
五橋中学校

### 吉成中学校

10月24日～28日

岩倉 響

図書館での職場体験を通して、図書館で行っている仕事をたくさん体験できたのでとても良かったです。また、知らなかった仕事もたくさんあって色々な体験ができました。

太田 悠介

今回はじめて職場体験をしてみて、この図書館という職場では、自分たちが普段使っている図書室とはまったく違いました。これが学校と職場の違いだと改めて知ることができました。



絵本紹介の発表会の様子

大久保 智理

僕は、この職場体験で協力の大切さがわかりました。同じ仕事をする人たちは、その仕事の大変なところを手伝い合う事が大事だとわかりました。本当にありがとうございました。

菅原 可奈子

今回東北福祉大学の図書館で職場体験をしてみて、図書館での仕事、使う用語などについて分かりました。今回学んだ事を将来自分が働く際に活かしていきたいと思いました。

## 図書館日記

～南三陸町図書館再開支援ボランティア～



震災後、被災地復興の力になればということで、本学では学生、教職員ともにボランティア活動に参加してきました。私たち図書館職員もそんな思いでいたところ、南三陸町図書館再開に向けてのボランティアのお話があり、2日間の予定でお手伝いすることになりました。

9/28、課長の車に5人乗合で出発。あれから6カ月経つとはいえ、津波の爪痕は深く刻み込まれており、海沿いにあった南三陸町図書館は跡形もなく消え去って、その場所さえも地盤沈下によって海の一部となっていました。仮設図書館はベイスайдアリーナの隣に建てられた2棟のプレハブ。1棟には書架が置かれ、本が並べられるのを待っているようでした。もう1棟は閲覧室で、先陣のボランティアが子どもたちのために、かわいらしく飾り付けを施してくれていました。

事前に予定されていた作業は本のカバーがけや配架ということでしたが、現場に行ってみると、全国から集まった図書は3千冊。まだ整理されていないものが多くあり、本の分類作業(本を主題・内容によって分類し、数字を付与する作業)もお手伝いすることになりました。しかし、10/5の開館にはとても間に合いそうにありません。当初2日間の予定でしたが、次長の決断で開館前日までの5日間、作業に入ることになりました。

私たち図書担当は分類作業を行いました。分類の仕方や受入方針は図書館によって違うのははじめは少々戸惑いましたが、1冊1冊分類表にあたり数字を与えていく作業は、オンラインでの仕事に慣れた私たちに分類作業の基本を思い出させてくれ、初心に帰った気持ちで取り組みました。

体力に自信のある(?)次長&課長は閲覧室の畳敷きなど肉体労働で貢献。係長は得意のPCでサインづくり。手先の器用な閲覧担当はカバーがけや蔵書印捺印。最終日にはある程度書架に図書を並べることができ、利用者を持つばかりとなりました。

図書館は館種を超えて繋がり協力し合うものだと、この業界ではよく言われます。今回の活動では図書館界の一図書館として、私たちの図書館もその役割を果たせたのではないのでしょうか。

翌日、南三陸町図書館オープンがニュースで放映されました。子どもたちが楽しそうに本を手取る姿を見て、本と人との繋げる図書館の仕事の魅力を改めて感じ、人を笑顔にできる仕事に就けてほんとうに幸せだなと思った瞬間でした。(図書担当:稲妻凜子)

## 司書のプロムナード



「災害キュートピア」  
レベッカ・ソルニット著  
亜紀書房

所 在：学生閲覧図書  
請求記号：369.3/ソル/学関

災害キュートピアと聞いてまず何を想像するだろうか？ 災害 と キュートピア という相反する事柄が結びつくことはあるのだろうか？ 未曾有の災害を経験したばかりの私たちは、この本からどんなメッセージを受けとることが出来るのだろうか。

この本は、アメリカ本土で起きた大災害を中心に、災害下の市民の行動とそれに伴うコミュニティの形成の様子、また政治家や知事といった権力を持った側の人々の行動パターン、そしてその分析が、災害ごとに5章に分けて描かれている。

映画やマスコミでは災害下の一般市民をヒステリックでそれが原因で略奪や殺人といった恐ろしい二次災害を起こすように描くが、実際はそういう事態は殆ど起こらないらしい。どの災害時も同様に、あらゆる社会システムが機能しなくなり、通常の秩序や社会的役割が無意味となった時、新たな小社会、市民によるコミュニティが形成されるという。本書では災害時のコミュニティの形成の様子や、その役割について書かれているが、人々は互いに利他的かつ共同主義的で、温かな交流を率先して結んでいる様子が見て取れる。

一方、市民を統制する側にいる人間が起こす エリートパニックの危険性についても語っている。エリートパニックにより、情報の隠ぺいや操作が行われ、そのため市民に正確な情報が行き届かず、それが2次災害を招いたケースを挙げている。

災害は一時的に別の社会、それは柔軟性に富み、平等主義的な社会を形成する機会を私たちに与えると著者は言う。そして、私たちはその社会に献身的かつ積極的に貢献していこうとする 自分を発見する。それが 「災害キュートピア」 なのだと。人間の底力を感じられる一冊である。(図書担当:八巻 千穂)



## 図書館利用シリーズ 11

## パスファインダー

皆さんが図書館を訪れた際、利用方法に疑問に思ったり迷ったりすることってありませんか？ 例えば、「書庫の本を利用したいとき、どうするんだろう？」、「貸出中の本は予約できるのかなあ？」などなど...。そういった疑問を解決してくれるのが、「パスファインダー」と呼ばれるリーフレットです。

このパスファインダーは、皆さんが図書館を利用する上で、道しるべや図書館のガイドとなり、ちょっとだけ手助けをしてくれます。例えば、「書庫の資料を利用するには？」というパスファインダーを見ていくと、書庫にある本の利用方法や出庫手続きについてのガイドがあったり、「インターネットで文献検索」では、データベースの紹介があったりと、図書館の利用方法にとどまらず、情報収集のためのツールにもなります。このパスファインダーは15項目あり、2Fまたは3Fカウンター付近にあります。自由に持ち帰ることもできますし、図書館のHPから閲覧することも可能ですので、利用方法や情報収集のガイドとして、ぜひパスファインダーを手にとり活用してみましょう!! その他わからないことがあれば、もちろんカウンターにいる職員へ気軽に声をかけてください。いつでも皆さんの利用をお待ちしています。

(閲覧担当:五十嵐智子)

### パスファインダーのご案内

レファレンス・サービスってなに？	資料の検索	論文を探す
請求記号ってなに？	資料の検索	論文を探す
レファレンス資料ってなに？	論文のコピーを取寄せるには？	
書庫の資料を利用するには？	本を取寄せるには？	
本を予約するには？	インターネットで文献検索	
パソコンを利用するには？	インターネットで文献検索	
ビデオ・DVDをみるには？		



## 図書館からのお知らせ

### 長期貸出の返却日について

冬季休業中の長期貸出の返却日は、平成24年1月10日(火)までです。返却日を守り利用しましょう。

### 開館日の変更のお知らせ

3月13日、20日...本館・分室とも**休館**  
3月21日.....本館・分室とも**開館**  
開館時間： 本館 9:00 ~ 17:00  
分室 11:00 ~ 17:00

### 人事異動がありました。(2011年10月1日付)

後藤貴志...図書館から大学院教務課へ  
八巻千穂...教務課から図書館へ

### その他

12月に絵本コーナーにて、クリスマス絵本の展示を行いました。ご覧になりましたか？ 図書館では、これから楽しいことを始めるべく作戦会議中です。お楽しみに！

### - スタッフ紹介 -

5年半ぶりに教務課から図書館に戻って参りました、デモドリ2号です。先日東北地区のフレッシュパーソンセミナーにも参加し、フレッシュな気持ちでフレッシュな図書館になるよう尽力していきます！  
八巻 千穂

### - 編集後記 -

昨年10月の人事異動では後藤氏が図書館から大学院教務課へ異動となりました。長年図書館を支えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。再び図書館と一緒に仕事が出来る日を待っています。

今年も楽しく読んでもらえる「としょかんぼう」にしていくべく、面白いものを企画していけるよう頑張りますね。よろしくお祈りします。  
五十嵐・稲妻・菅原

東北福祉大学図書館報「としょかんぼう」 14 2012年1月

編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国児1-8-1



TEL:022-717-3319 FAX:022-717-3309

E-mail: lib@tfu-mail.tfu.ac.jp

http://www.tfu.ac.jp/libr/tful.html